

平成30年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立中之島幼稚園

教育目標

主体的で、感性豊かな子供を育てる

ゆめ	重点目標	具体的取組	取り組みの状況	
魅力いっぱい元気な幼稚園	遊びを中心とした生活を通して、主体的に活動が出来る人間性豊かな子供を育成する。	心豊かな子供	保・幼・小連携教育で豊かな情操を培う	小学生との交流・保育所園児との交流を各組、学期に1回以上行いました。主な活動は「給食交流」「砂場で遊ぼう」「プール遊び」「サーキットであそぼう」など
			豊かな体験を共有する	園児の驚きや感動を大切に、身近な環境で自然に触れる体験活動を保育に取り入れました。主な活動は、一人一鉢、砂場あそび、園畑で作物をつくらう、公園であそぼう、遠足や園外保育など
			温かい人間関係を築く	絵本や物語に親しむ機会を多くもつために、担任だけでなく地域の方の協力を得ました。また家庭での読書も勧めています。主なものは、素話(地域ボランティア)、一日一話、楽しい読み聞かせ(保育)、「うちどく」の推進(家庭)
		たくましく主体的に活動ができる子供	自ら進んで遊ぶ	朝の体操、園庭での運動遊び、マラソン、砂場遊び、中之島公園での遊び、サッカー教室、水あそび、忍者ごっこ、ボール遊びなど、園児が自発的にからだを動かしたくなる環境づくりに取り組みました。
			基本的な生活習慣を身につける	年齢に応じた生活習慣を身につけるために、手洗い・うがい・歯磨きの習慣、清掃活動、遊具や園内の安全確保、安全点検などに取り組みました。
			食育を推進する	給食を通して食への興味関心を高める一方、栽培した作物(大根・じゃがいも・たまねぎや園内にあるいちご、きんかん、柿、ウメ等木の実)を味わう体験も行いました。
		自分の思いを伸ばし子供伸び	図書に親しみ楽しむ	保育では、集団生活から他者への愛情を育むため、友達といっしょに互いに関わる活動を多くする中で、信頼関係を築くことを大切に活動しました。また、リトルたんぼぼや敬老参観等では幅広い年齢層の人との関わりを持てるように工夫しました。
			体験したことを伝える	楽しい体験をすることによって自然に発言できる機会を設定。気づくこと感じることを通して、自分なりの表現ができることを保育の中で大切にしてきました。伝え合うことを楽しめる子供たちが育ってきています。
			自尊感情を高める	いろいろな活動を通して「やった」「できた」という成功体験を多くもたせるよう工夫しました。「自分だってできるよ」また「お友達もがんばったね」と、自分や他者を大切にできる心を育成しました。

2. 保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

・「幼稚園は運動遊びや子供の思いを取り入れた遊びを保育に取り入れ、たくましくのびのびと活動する子を育てるために努力している。」(項目3)に対し、「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した保護者は100%で昨年と同じ結果でした。取り組みを評価していただいていると感じています。

・「子供は幼稚園生活を通じて、自分で考えて行動する力を培っている。」(項目13)や「子供は友達や先生のこと、また幼稚園での遊びのことについてよく話す。」(項目14)は昨年を下回った。取り組みの改善を図っていきます。

・「子供は毎日楽しそうに通っている。」(項目8)に対しては96%が肯定的な評価であり、昨年を1ポイント下回りましたが、本園の子供たちが楽しく通園していると評価されたことは保育活動が適切であるとの評価だと感じています。

・情報提供(項目1)については、園だよりやホームページ等の充実を図り、92%が肯定的な評価をいただきました。今後もさらなる充実を図っていきます。

・幼稚園の施設(項目7)については、「とてもそう思う」「そう思う」の割合が86%と昨年を大きく上回りました。夏季休業中などを活用し、園舎内に運動ができるスペースや遊具等の充実をはかった結果であると思われま。今後も園内環境充実に向けて工夫していきます。

3. 今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

・今年度も小学生や保育所園児との交流、事前事後の打ち合わせ等を行い、互いに子供の発達段階を理解し、保幼小連携が深まっています。今年度は、保幼小連携教育において、子供たちの育ちにとってよりよい交流となるよう職員間で活動計画の共有はもちろんのこと、事後の評価を改善に向けても話し合いを行うことができました。

・園内での異年齢交流にも積極的に取り組むため、今年度はお店ごっこのときだけでなく、朝の登園後に全園児で遊ぶ時間を設け、学年を越えて共に活動する場を意識しました。来年度もさらに自由に遊ぶ時間を設ける等、異年齢交流を積極的に取り入れようと考えています。

・子供一人ひとりの思いを捉えることを大切にし、子供が思う存分遊び込める環境づくりを心がけるとともに、子供たちの体づくりを目指し毎朝の体操とマラソンを実施し、運動遊びを中心とした保育を行うことにより、たくましくのびのび活動できる子供が育ちつつあります。また、子供が自ら積極的に体を動かすことのできる機会をもてるような環境設定を心がけ、園舎内の環境が少しずつ充実してきています。異年齢での交流をさらに豊かにし、遊びの幅を広げていきたいと考えています。

・直接体験活動を重要視し、園庭や隣接する公園を活用すると共に、畑での野菜栽培にも力を入れました。カレーパーティーやおでんパーティー等を通して栽培した野菜を食し、食育の充実を図ることができました。

・年長児には鍵盤ハーモニカを導入し、表現の幅を広げることができました。保育の時間では、表現力や言葉の力を伸ばすことが必要であり、子供一人ひとりが自分の思いを自分の言葉で伝えることができるように、指導者の言葉かけを大切に援助を続けていく必要があると考えています。

4. 学校関係者評価委員による自己評価の検証

教職員は、表情が明るく、担任と補助のチームワークの良さにより園児一人一人への細やかな目配り気配りが感じられました。また、聞く力や表現力が身につけていること等子供の育ちが感じられます。子供たちが草木の成長を身近に感じ、知ることができるよう、さらに園内環境としての自然を充実させるとともに、自らが運動に親しめるよう、環境構成の充実・発展をお願いしたいです。